

1 PLAN(目的・概要)

政策名	港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 港湾管理事務所長	
施策名	港の安全性・信頼性・危機管理の向上	成果	コスト			
事務事業名	港湾施設の保安対策のための監視業務等の実施			連絡先	052-398-0503	
目的	対象(誰・何を)	港湾施設			事業期間	平成17年度～
	意図(どうい う状態にしたいか)	保安対策(SOLAS)を推進します。				
概要	入港する外航船や岸壁に対して行われる恐れのある危害行為を防止します。			根拠法令等	国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律	
令和元年度の実施予定	①名古屋港の公共ふ頭(15施設53パース)に設定された制限区域内外の監視②SOLASゲート、フェンス等の維持補修			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				関連シート		

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	保安対策警備監視業務、埠頭保安機械設備点検及び保守・維持等業務を委託し、制限区域への出入管理及び内外の監視、当該設備の保守・維持修繕を実施することにより、人又は車両が正当な理由なく立ち入ることを防止しました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	222,268	235,871	426,130	294,756	
人件費	千円	9,190	9,219	9,174	9,194	
合計	千円	231,458	245,090	435,304	303,951	

3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
制限区域における危害事案発生件数 (単年度管理型)	目標	0	0	0	0	適切な保安対策を行うことにより制限区域における危害事案を発生させないこととして目標値を0件に設定しました。	世界情勢の不安定化
	実績	0	0	0	0		
事業進捗状況(元年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る 目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	適切な保安対策を行うことにより、制限区域における危害事案発生件数を0件にすることができました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？					
有効性	○	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？					
効率性	○	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？					
	○	期待どおりの成果が得られているか？					
	○	必要に応じて警備員の立哨、巡回、緊急要請を行っていることや監視カメラ等の使用により効率的に事務を行っているかと判断しました。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	船舶及び港湾施設の保安の確保を目的とした「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」の規定に基づく法定事務であり、引き続き保安の確保に努める必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			2年度以降の取組
効率性を念頭に置きつつ、確実に港湾施設の保安対策を推進することが課題です。併せて、ふ頭保安機械設備の経年劣化に伴う修繕費用がかさんでいることから、月例点検で指摘される箇所の修繕が困難な状況です。			制限区域へ入場する者の3点確認(本人確認、所属確認、目的確認)の確実な実施及び埠頭保安設備を適切に維持管理していくとともに、保安対策に必要な予算の確保に努めていきます。